



## 子ども達が楽しいと自分も楽しい

八雲保育園 保育士 迫田 顕子さん

宝塚のトップスターを彷彿とさせるようなヘアスタイルで爽やかな風を吹かせて、迎えてくれる迫田先生。保育園には元氣よくのびのび遊ぶ子ども達と家族のように温かく成長を見守る保育士の姿がありました。今回は八雲保育園で保育士として働く迫田顕子さんにお話しを伺いました。

### 自分が楽しむこと

二十数年働く八雲保育園は、就職時に自分の思い描いていた保育像と園の掲げる保育理念である「センス・オブ・ワンダー」驚きに目をみはる心」がぴったり合った。この理念は子ども達が主体となって遊び、保育士はその環境を作るといふもの。子ども達がいかにいろいろなことに挑戦して成功したときやその達成感を先生に伝えるときのキラキラした笑顔、そして何より子ども達が満足するまで遊んだときに自分もとても楽しい気持ちになれる。毎日が発見の連続で「子どもってすごいなあ」と思う瞬間がたまたまなく好きなのだという。皆さんは幼少期、こまを作って遊んだりしなかっただろうか。ペットボトルのふたやドングリなどで作り、周りの友達とどちらがより長く回るか競う。どうすれば長く回り続けるこまが作れるのかと工夫を凝らし、よく回るものができるかと先生に報告。とてもうれしい気持ちになる。子ども達の気持ちを第一に考えて行動すると、一緒にうれしさを感ぜたり達成感を味わえ

るぞうだ。職場の仲間との連絡会や一日の報告会では毎日盛り上がり、話が絶えることがないほどだ。

### 仲間にも恵まれて

保育士になったのは、高校で進路を考えたときに「子どもと関わる仕事をしたい」と思い、乳幼児教育の道へ進むことを決めたからだ。地元の岐阜で働いていたが、結婚を機に舞鶴へ移住。今の八雲保育園で働くようになった。「舞鶴は実家よりも雨が多いです。舞鶴へ来るたびに傘をさしていた気がします」とユーモア交じりに結婚前の舞鶴の印象を話してくれた。

また、迫田さんは母親として3人のお子さんを育てている。八雲保育園で働き始めてから出産を経験。その時は職場でもとても配慮してもらっていたという。仕事と子育てとの両立はとても難しいものだが、そういった体制だったので大きな苦勞なく育てることができた。「ひとりでは絶対に子育てと仕事の両立はできていません。子育てと仕事の両立は、自分に合った職場の環境や仲間との

チームワークは仕事をする上で大切なことではないかと思えます。先生である自分たちが楽しく過ごしていないと子ども達も目いっぱい楽しめませんから」と話してくれた。

### いつでも笑顔を大切に

保育をしている中で大切にしていることは「笑顔」。子ども達は近くの大人の真似をして成長していきます。乳幼児期は子ども達にとつていろいろなことをたくさん吸収できる時期なので、一緒に過ごす時は笑顔でいることを心掛けています。子どもを相手に行っていると一日たりとも同じ日はありません。子どもは毎日、毎時間、成長していきますし、それと同時に保育者である私たちも毎日成長させてもらっているのだと感じています。保育士は大変というイメージがありますが、それは世間が作っている勝手なイメージではないでしょうか。私にとつて保育は子ども達と一緒に成長できる楽しく充実したもので、やりがいのある仕事です」と今日も迫田さんは子ども達と一緒に毎日を楽しんでる。



まいつる

花図鑑



vol. 136

鉢植えや切り花、花壇など花の少ない冬に欠かせない多年草。元は江戸時代にヨーロッパから渡来したケールという野菜でキャベツの原種。日本では食用より觀賞の対象として改良され、色や葉の形も変化にこんだものが作り出され、今では欧米に輸出もされている。

ハボタンは苦味があるため食用にはされないが、原種のケールは青汁の材料に使用される。

名前の由来は「葉牡丹」で葉の様子を牡丹の花に見立てたことから。

【協力】瓜生勝朗

市文化財保護委員(植物分野)



ハボタン  
(アブラナ科)

見ごろ 11～3月頃

